

実務経験のある教員による科目の配置状況

教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業をおこなうか)
基礎看護学	看護のみちしるべ	2	45	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護とは何か、看護師の役割は何かを探求し続けるための基本的な考え方について教授する。
	看護の基本技術	2	45	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護を实践するうえで基本となる、観察・コミュニケーション技術等の習得を支援する。
	生活を支える看護Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽・自立に向けた環境調整、活動・休息の看護を教授する。
	生活を支える看護Ⅱ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽に清潔を整える技術と呼吸・循環を整える看護を教授する。
	生活を支える看護Ⅲ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽・自立に向けた食事・排泄の看護を教授する。
	診療を支える看護	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、安全・安楽に診療を支えるための看護を教授する。
	看護実践の思考過程Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、症状を呈する患者に合わせた看護を行うための臨床判断の理解を支援する。
	看護実践の思考過程Ⅱ	1	15	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、科学的思考で看護を行うプロセスの理解を支援する。
	看護実践過程の基礎	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、健康課題を持つ患者の願いを捉える意味と変化する患者の状況に合わせた看護を考える過程を理解を支援する。
合計		11	285		

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	看護のみちしるべ		対象年次・時期	1年次・前期～後期	
単位・時間	2単位・45時間				
担当講師名	教員				
科目目標	看護とは何か、看護師の役割は何かを探究し続けるための基本的な考え方を身につけられる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1～9	看護とは何か	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を学ぶにあたって 2. 看護の定義 3. 看護の役割と機能 4. 看護を必要とする場 5. 看護理論 6. 看護の対象の理解 	教員	講義 GW 見学
	10～14	健康とは	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とはなにか 2. 国民の健康状態 		講義 GW
	15～19	看護倫理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理とは 2. 看護倫理 3. 看護実践における倫理問題 		講義 GW
	20～22	看護の中の安全	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とは 2. 医療事故の要因 3. 医療事故防止策 4. 感染予防策の基本 		講義 GW 演習
23	終講試験				
テキスト 参考文献等	系統看護学 看護学概論(医学書院)、看護覚え書 看護の基本となるもの(日本看護協会) 基礎看護技術I				
使用教材	パソコン、プロジェクター				
履修上の アドバイス	この科目は看護とは何か、看護師の役割とは何かを考え探究し続けるために考え方や視点を学習します。看護の場の見学や体験者の話、事例を使ってクラスメートの意見も取り入れながら自己の考えを深めていきましょう。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	筆記試験		6		
	パフォーマンス課題		4		
	*筆記試験・パフォーマンス課題の得点がそれぞれ6割以上であることで単位修得とします。 *パフォーマンス課題の評価はルーブリックにより行います。 *パフォーマンス課題の評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象となりません。				

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	看護の基本技術		対象年次・時期	1年次・前期		
単位・時間	2単位・45時間					
担当講師名	教員					
科目目標	1.看護を実践する上で基本となる、ヘルスアセスメント・コミュニケーションを習得し、対象を把握する意義を理解できる。 2.基本的な記録・報告、指導を学習し、看護師が行う記録・報告、学習支援の意義を理解できる。 3.基本的な感染予防の技術を習得し、対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。					
講義内容 講義担当者	次	単元	主題	内 容	担当者	学習方法
	1～7		ヘルスアセスメント	1.ヘルスアセスメントの基礎知識 2.フィジカルアセスメントに必要な技術 3.身体計測 4.バイタルサインの観察技術とアセスメント 1)血圧測定(触診法・聴診法) 2)体温・脈拍・呼吸測定 3)バイタルサインの変動因子の影響 4)バイタルサインのアセスメント	教員	講義 演習
			看護とコミュニケーション	1.コミュニケーションの基礎的知識の理解 1)コミュニケーションの構成要素と成立過程 2)相手に寄り添うとは 2.効果的なコミュニケーションの実践 1)傾聴の技術 2)情報収集の技術 3)アサーティブネス 3.看護とコミュニケーション 4.コミュニケーションに障害がある人への対応 5.コミュニケーションの意義と看護師の役割		
	8～10	1	看護と記録	1.看護記録の意義・目的の理解 1)看護記録の管理・記録と法的規定 2)記載・管理における看護師の責任 2.看護記録の構成 1)基礎情報・看護計画・経過記録 2)リフレクション 3.記録の種類、記載の実践 4.看護と報告	教員	講義
				講義 演習		
				講義 演習		
	11～13	2	看護と学習支援	1.学習に関わる諸理論 2.健康に生きることを支える学習支援 3.対象に合わせた支援方法と媒体の工夫 4.個別指導・集団指導の特性と適用 5.学習支援の実践(演習)	教員	講義 演習
14～16	感染予防		1.感染の定義と成立過程・感染経路の理解 2.感染予防のための看護技術の実践の理解 1)感染経路別対策 2)感染源対策 3)無菌操作 4)防護用具	教員		
17～21	22 23	終講試験(筆記試験・技術試験)				評価
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 「看護がみえるvol.1基礎看護技術」「看護がみえるvol.2臨床看護技術」(メディックメディア)					
使用教材	プロジェクター・PC・書画カメラ・ホワイトボード					
履修上のアドバイス	1.この科目では看護の基本となる技術を学びます。特に対象者を理解するための方法を学んでいきます。 2.ヘルスアセスメントでは対象者の身体に起きていることを知るための技術を学びます。対象者の生命にかかわる技術なので、正確で確実な技術を習得しましょう。 3.看護コミュニケーションは対象者を理解するために必要な技術です。体験を通して対象者の思いを感じ、看護を行う上で必要な技術としてのコミュニケーションを学びましょう。 4.看護記録はチームの中で患者の情報交換をする上で大切な方法です。記録・報告の原則を学び、看護師が行う記録・報告について理解を深めましょう。 5.看護と学習支援では、基本的な指導の方法を体験を通して学びます。理論を知り、対象者に合わせた指導を行うための基礎を学びましょう。 6.感染予防では感染予防の原則と方法を学びます。感染予防の技術はこれから学ぶすべての看護に関連してくるため、根拠を学び確実な技術を身につけましょう。 7.演習の中で体験を通して学ぶ方法を多く取り入れています。自己学習とリフレクションで学びを深め、主体的に技術練習に取り組み、正確な技術を身につけましょう。					
成績評価	単元		評価方法	評価割合		
	1	ヘルスアセスメント	筆記試験	4		
			技術試験	3		
		看護とコミュニケーション	筆記試験	3		
	2	看護と記録	筆記試験	2		
看護と学習支援		筆記試験	2			
感染予防		筆記試験	6			
*この科目は単元別評価を行います。 *単元1・2の平均点が科目の点数となります。 *筆記試験・技術試験の得点がそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。						

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	生活を支える看護Ⅰ		対象年次・時期	1年次・前期		
単位・時間	1単位・30時間					
単元名	環境を整える援助 活動・休息・安楽の援助					
担当講師名	教員					
科目目標	1. 安全で快適な生活環境を整えるための援助方法を習得し、環境を整える意義と看護の役割が理解できる。 2. 安全・安楽・自立に向けた活動・休息・安楽の援助方法を習得し、活動・休息・安楽を調整する意義と看護の役割を理解できる。					
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法	
	1	1. 環境を整える援助	1. 環境とは 2. 療養生活の環境	教員	講義 演習	
	2		3. 病床の環境と調整			
	3					
	4					4. 病床環境を整える援助 1) ベッドメイキング 2) 病床の整備のポイント 3) 臥床患者のシーツ交換
	5					
	6					
	7					
	8	1. 姿勢と体位・ボディメカニクス 2. 人間の自然な動き 3. 体位変換 4. ポジショニング 5. 移動・移送 1) 車いす 2) ストレッチャー 3) 歩行の援助 6. 安静の弊害 7. 睡眠・休息の援助 8. ADL・活動の場に合わせた援助 9. 活動・休息の意義・看護の役割		教員	講義 演習 GW	
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15	終講試験（筆記試験（45分）・技術試験）				
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 「看護がみえるvol. 1 基礎看護技術」「看護がみえるvol. 2 臨床看護技術」（メディックメディア）					
使用教材	演習は看護実習室で行う。					
履修上のアドバイス	1. 在宅や入院生活を送る対象にとって安全で快適な環境を考えましょう。 2. 人間の自然な動きをもとに、対象者にとって安全・安楽、自立に向けた活動や休息の援助方法を考えましょう。 3. 患者役の体験を通して感じたことを活かし、患者への配慮も学んでいきましょう。					
成績評価	単元		評価方法	評価割合		
	1. 環境を整える援助			筆記試験	3	
				技術試験	3	
	2. 活動・休息・安楽の援助			筆記試験	4	
* 筆記試験・技術試験の得点がそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。						

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	生活を支える看護Ⅱ		対象年次・時期	1年次・前～後期	
単位・時間	1単位・30時間				
単元名	清潔・衣服の援助 呼吸・循環を整える援助				
担当講師名	教員				
科目目標	1. 安全で心地よく清潔を保つために必要な援助方法を習得し、清潔・衣生活の意義と看護の役割を理解できる。 2. 呼吸・循環を整えるための知識と技術を習得し、看護を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法
	1	1. 清潔・衣服の援助	1. 清潔とは	教員	講義・GW
	2 3 4 5		2. 清拭・寝衣交換 対象者にとって安全で心地良い清拭と寝衣交換		講義 演習
	6 7 8		3. 口腔ケア 4. 部分浴（足浴・陰部洗浄・手浴） 5. 洗髪		演習 GW
	9		6. ADL・生活の場に合わせた清潔援助		
	10		7. 清潔の意義・看護師の役割		講義・GW
	11 12 13	2. 呼吸・循環を整える援助	1. 呼吸のメカニズム 2. 酸素療法 3. 排痰ケア 1) 体位ドレナージ 2) 一時的吸引	教員	講義 演習
	14		4. 体温調節の援助 5. 末梢循環促進ケア		
	15	終講試験（筆記試験（45分）・技術試験）			
	テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 「看護がみえるvol. 1 基礎看護技術」「看護がみえるvol. 2 臨床看護技術」（メディックメディア）			
	使用教材	演習は看護実習室で行う。ホワイトボード			
	履修上のアドバイス	1. 在宅や入院生活を送る対象にとって安全で快適な清潔援助を考えましょう。 2. 肌の露出の機会が多いため、羞恥心や保温への配慮は欠かせません。演習での体験から得た思いを援助に活かしましょう。 3. 人の生命活動を支えるためにも、呼吸・循環を整えることはとても重要な看護です。根拠を持って安全・安楽に実践できるよう技術について学びましょう。			
	成績評価	単元	評価方法	評価割合	
		1. 清潔・衣生活の援助	筆記試験	3	
			技術試験	3	
2. 呼吸・循環を整える援助		筆記試験	4		
* 筆記試験・技術試験の得点がそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。					

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	生活を支える看護Ⅲ		対象年次・時期	1年次・前～後期	
単位・時間	1単位・30時間				
単元名	食事の援助 排泄の援助				
担当講師名	教員				
科目目標	1. 対象者の栄養状態や摂食能力のアセスメントの視点を理解し、安全・安楽・自立に向けた方法が理解できる。 2. 排泄のメカニズムやアセスメント方法から対象者の状態に応じた排泄援助を学び、安全・安楽・自立に向けた援助方法が理解できる				
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法
	1	1. 食事の援助	1. 栄養状態のアセスメント 2. 摂食・嚥下能力のアセスメント	教員	講義 GW
	2 3		3. 食事介助の具体的な方法 4. ADL、生活の場に合わせた援助		講義 演習
	4 5		5. 経口的食事摂取に障害のある対象者への援助 1) 経管栄養法の種類と具体的な安全・安楽な援助方法 2) 中心静脈栄養法に伴う合併症とは 6. 食事の意義と看護の役割		講義
	6	2. 排泄の援助	1. 自然な排泄を維持・促進するための援助	教員	講義 GW
	7		2. ADLに合わせた排泄の援助		講義 演習 GW
	8 9 10		3. 自然排尿が困難な場合の援助 1) 排尿困難・尿閉・尿失禁のある対象者への援助 2) 一時的導尿と持続的導尿の援助の実際		講義 演習 GW
	11 12 13		4. 自然排便が困難な場合の援助 1) 便秘・下痢のアセスメントと改善方法 2) 浣腸と排便を安全に行うための援助方法の実際		講義 演習 GW
	14		5. 排泄の意義と看護の役割		講義 GW
	15	終講試験			講義 評価
	テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 「看護がみえるvol. 1基礎看護技術」「看護がみえるvol. 2臨床看護技術」(メディックメディア)			
	履修上のアドバイス	1. 自己の食生活を振り返り、安全で楽しい食事の援助を考えていきましょう。 2. 排泄の援助はプライバシーに配慮することがとても大切です。患者体験を通して患者の気持ちを考えプライバシーに配慮した援助を考えましょう。			
	成績評価	単元	評価方法	評価割合	
		1. 食事の援助	筆記試験	3	
		2. 排泄の援助	筆記試験	7	
*各単元の得点の合計点が6割以上であることで単位修得とします。					

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	診療を支える看護		対象年次・時期	2年次・前期		
単位・時間	1単位・30時間					
単元名	診察・検査時の援助	与薬時の援助				
担当講師名	教員					
科目目標	1. 安全・安楽な診療を支えるための技術を習得し、看護の役割を考え実践する力をつける。 2. 正しく与薬を行うために人体のしくみとはたらきや薬と看護の知識を活用し、安全で安楽な援助の実際を学ぶことができる。					
講義内容 講義担当者	次	単元	内 容	担当者	学習方法	
	1 2	1. 診察・検査時の援助（採血・採尿・穿刺時の援助）	1. 診察 1) 診察・検査のプロセス 2) 診察・検査における看護の役割 3) 診察の方法	教員	講義	
			2. 検査 1) 検査の種類と看護師の役割 2) 検査の種類と安全に検体を採取する方法と取り扱い 3) 安全安楽な援助方法 4) 検査での事故予防		講義	
			3. 検査時の援助 1) 静脈血採血・穿刺 2) 静脈血採血の実際（演習）		講義 演習	
	3 4 5					
	6 7 8	2. 与薬時の援助	1. 与薬 1) 薬剤の種類と取り扱い 2) 与薬方法と効果の観察 3) 与薬における看護師の役割	教員	講義 GW	
			2. 注射 1) 注射方法と取り扱い 2) 注射の準備と援助の実際 3) 実施上の看護師の役割 3. 輸血管理 1) 輸血の種類と管理方法 2) 輸血による副作用 3) 輸血における看護師の役割		講義 演習 GW	
			与薬の意義と看護師の役割		GW 講義	
			14			
	15	終講試験				
	テキスト 参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 「看護がみえるvol. 1 基礎看護技術」「看護がみえるvol. 2 臨床看護技術」（メディックメディア）				
	履修上の アドバイス	事例をもとにその場に応じた看護援助を学習します。「人体のしくみとはたらき」「検査と看護」「薬と看護」を関連させ学習します。また、演習での体験から患者の思いを考え、実践を振り返り、安全で安楽な援助方法を探究する力を身につけていきましょう。				
	成績評価	単元		評価方法	評価割合	
		1. 診察・検査時の援助		筆記試験	4	
		2. 与薬時の援助		筆記試験	6	
	*各単元の得点の合計点が6割以上であることで単位修得とします。					

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	看護実践の思考過程Ⅰ			対象年次・時期	1年次・後期				
単位・時間	1単位・30時間								
担当講師名	教員								
科目目標	症状を呈する患者に合わせた看護を行うための臨床判断の基礎を学ぶ。								
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法				
	14	1. 呼吸困難のある患者の看護 2. 循環障害のある患者の看護 3. 痛みのある患者の看護		教員	講義 GW				
						15	OSCE		
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護学「4」臨床看護学総論（医学書院）								
履修上の アドバイス	<p>この科目で学ぶ内容は、今後学習する各領域の看護の基礎となる知識です。症状を呈する患者さんに対して五感を使って観察し、解剖生理学や看護の知識を使って「気づき」「解釈」し、看護師のように考える思考過程を目指します。</p> <p>この科目は3つの症状に対する看護をシミュレーションやフィジカルアセスメントを行いながら学習していきます。自己の学習や知識の確認のためには事前学習や追加学習が大切になってきますので、準備をして参加しましょう。</p>								
成績評価	評価方法			評価割合					
	パフォーマンス評価			8					
	OSCE（客観的臨床能力試験）			2					
	<p>*パフォーマンス評価・OSCEそれぞれが6割以上であることで単位修得とします。 *レポートの評価はルーブリックにより行います。 *レポートは、評価日の8：50までに提出がない場合は評価対象となりません。</p>								

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	看護実践の思考過程 II		対象年次・時期	2年次・後期	
単位・時間	1単位・15時間				
担当講師名	教員				
科目目標	科学的思考で看護を行うプロセスを理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1	看護過程展開の技術	1. 看護過程とは 1) 看護過程に必要な理論と概念 2) 問題解決思考 3) クリティカルシンキング	教員	講義 GW
	5		2. 情報収集と情報整理 3. 情報のアセスメント		
	7		4. 看護問題の明確化 5. 看護診断 6. 看護計画 7. 評価 8. 看護過程の意義		
8	終講試験				
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術 I (医学書院)				
使用教材	パソコン・プロジェクター				
履修上のアドバイス	1. 今まで学習してきた知識をフル活用して看護を考えていきましょう。 2. 実習で受け持った患者さんの看護を振り返りながら学習を進めます。実習で使用したポートフォリオや学習ノートを使います。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	筆記試験		10		

令和4年度 「基礎看護学」

科目名	看護実践過程の基礎			対象年次・時期	2年次・前期
単位・時間	1単位・30時間				
担当講師名	教員				
科目目標	1. 健康課題をもつ患者の願いを捉える意味を理解できる。 2. 変化する患者の状況に合わせた看護を考える過程を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	単元名	内容	担当者	学習方法
	1	臨床判断の過程	1. パフォーマンス課題オリエンテーション 2. ビジョン・ゴールの設定	教員	演習 GW
	2		3. 患者の願いを捉える 4. 日々変化する患者の状況に合わせた看護を考える		
	14				
	15		まとめ		
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 疾病と看護 症状別看護 薬理学 成人看護学概論				
使用教材	ホワイトボード				
履修上のアドバイス	1. この科目はシミュレーション学習を取り入れ、実際の患者とのかかわりをリアルに体験します。患者の思いや生活の状況、疾患による症状を理解できるよう、実習や学内での体験を想起し、主体的に学びましょう。 2. これまで学習してきたすべての内容をフル活用して患者の全体像を理解しましょう。 3. この科目は基礎看護学実習Ⅱや領域別実習の基礎となる科目です。リフレクションを通して自ら学習課題を発見し解決する力をつけていきましょう。 4. グループワークを多く取り入れます。他者の意見に耳を傾け、自分の考えを深めたり広げたりしていきましょう。				
成績評価	評価方法			評価割合	
	パフォーマンス課題			10	
*パフォーマンス課題の評価はルーブリックにより行う。 *パフォーマンス課題の評価日の8:50までに提出がない場合は評価対象とならない。					

令和4年度「地域・在宅看護論」

科目名	地域で暮らす人々の理解		対象年次・時期	1年次・前期～後期	
単位・時間	1単位・30時間				
担当講師名	教員				
科目目標	暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1 2 3	暮らすということ	1. 子どもをうみ育てる 2. 学ぶ 3. 働く 4. 病を治す 5. 老いとともに生きる 6. 最期を迎える	教員	講義 GW
		生きるとは (自助・互助)	1. 家族 2. 仲間 3. 近隣の人々 4. 学校や職場 5. 支え合い		講義 GW
	4 5	地域で行われる看護 の実際	看護の場の見学：訪問看護の見学		訪問看護 ステーション 見学
	6 7 8 9 10 11 12	地域の生活環境が健康 に与える影響	1. 文化的環境 2. 社会的環境 3. 自然環境 4. 地域の特徴と健康への影響		講義 GW フィールド ワーク
		地域の防災と減災 (自助・互助・共 助・公助)	1. 災害とは何か 2. 地域の特徴と災害への影響 3. 地域の防災と減災を自助・互助・共 助・公助の視点で考える		
	13 14	暮らしの場での看護 とは	1. 看護が提供される多様な場 2. 地域の特徴と看護の役割 3. 暮らしの場での看護		講義 GW
	15	終講試験			
	テキスト・ 参考文献等	系統看護学 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 写真でわかる訪問看護 インターメディアカ			
	使用教材				
	履修上の アドバイス	この科目は、地域で暮らす人々の暮らしを理解し、暮らしが健康にどのように影響しているか。また、人々はどのように支えあって生きているのか学びます。看護の対象は、地域で暮らし続ける生活者であることを理解し、暮らしの場での看護とは何か、看護の役割を学習します。日頃から居住地域に関心を持ち授業に参加してください。			
	成績評価	評価方法		評価割合	
		筆記試験		8	
		課題提出		2	

令和4年度 「地域・在宅看護論」

科目名	地域で生活する人々の家族の看護		対象年次・時期	1年次・後期	
単位・時間	1単位 15時間				
担当講師名	非常勤講師				
科目目標	健康状態が家族に影響し合うことを理解し、家族を看護することについて理解できる。				
講義内容 講義担当者	次	主題	内 容	担当者	学習方法
	1 5 7	1. 家族とは 家族の多様性 家族の機能 2. 家族をどのようにとらえるか 1) ライフサイクルと家族 家族メンバーの関係性 家族の歴史 家族の未来 家族の中にある葛藤 2) ジェノグラム 3) エコマップ 3. 家族の中の役割 1) 健康障害と家族の影響 2) 家族の対応能力 3) 介護によって家族にもたらされるもの 4. 家族看護の実際 5. 家族を理解するための理論		非常勤講師	講義
	8	終講試験			
テキスト・参考文献等	系統看護学講座 別巻 「家族看護学」 (医学書院)				
使用教材	系統看護学 家族看護学				
履修上のアドバイス	地域に暮らす人々とのパートナーシップ型における看護の役割りは、家族支援が必須です。この科目では、家族理解の基本となることを学びます。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	筆記試験		10		

令和4年度 「成人看護学」

科目名	おとなの理解		対象年次・時期	1年次・前期～後期		
単位・時間	1単位・30時間					
担当講師名	教員					
科目目標	成人を看護するための基盤となる考え方や理論、援助方法を理解できる。					
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法	
	1	おとなとは 成人の概念	1 「成人」の定義 2 「成人」であることを自覚する状況とは 3 「成人」の概念	教員	講義 GW	
	2 3	ライフサイクルと成人期の特徴	1 ライフサイクルにおける成人期の位置づけ 2 成人期の身体的、精神的、社会的特徴 3 成人各期の発達課題 4 成人を取り巻く社会状況		講義 GW	
	4 5	成人の生活と健康 成人保健の動向と保健医療福祉政策	1 成人の日常生活 2 成人の生活スタイルの多様性 3 成人の生活と健康 4 成人の健康増進、疾病予防、疾病予防のための保健、医療、福祉政策		講義 GW	
	6 7	成人への看護アプローチの基本①	1 成人の健康観、生活行動、保健行動 2 成人に対する学習支援 アンドラゴジー 3 アプローチに必要な理論、概念① 1) 自己効力感 2) エンパワメント 3) ヘルスプロモーション		講義 GW	
	8 9	成人への看護アプローチの基本②	1 アプローチに必要な理論、概念② 1) ストレス、ストレスコーピング、危機 2) セルフケア、セルフマネジメント 3) 意思決定支援 2 成人の療養の場と支援		講義 GW	
	10	急激な健康破綻から回復を促す看護	1 生命の危機的状況 2 急性期にある人の特徴 3 救急医療を必要とする人々		講義 GW	
	11	慢性病との共存を支える看護	1 慢性病患者の理解 1) 病みの軌跡 2 慢性病との共存を支える看護の実践 1) エンパワメント 2) セルフケアとセルフマネジメント 3) セルフマネジメント支援		講義 GW	
	12	障害がある人の生活とリハビリテーション	1 障害がある人とリハビリテーション 2 障害がある人とその生活を支援する看護 3 各期のリハビリテーションと看護		講義 GW	
	13	人生最期の時を支える看護	1 人生の最期のときにおける医療の現状 2 人生の最期のときを過ごしている人の理解 3 人生の最期のときを支える看護師の役割機能		講義 GW	
	14	パフォーマンス	パフォーマンス課題の発表		演習	
	15	終講試験				
	テキスト・参考文献等	成人看護学総論（医学書院） 毎回使用します。 国民衛生の動向（必要時連絡） セルフマネジメント（メディカ出版） 緩和ケア（医学書院）				
	使用教材	教科書 プロジェクター VTR				
	履修上のアドバイス	この科目では、看護の対象となる「おとな」を理解します。そして、「成人」に対して看護をするための概念や理論を理解するために学習します。また、成人を看護するにあたっての基本的な知識と支援方法について学習します。				
成績評価	評価方法		評価割合			
	筆記試験		6			
	パフォーマンス評価		4			

令和4年度「老年看護学」

科目名	高齢者の理解と取り巻く社会		対象年次・時期	1年次・後期	
単位・時間	1単位 30時間				
担当講師名	教員				
科目目標	<ul style="list-style-type: none"> ・老年期にある対象の発達段階・発達課題について学習し、高齢者看護の特徴を理解する。 ・高齢者に関連した保健・医療・福祉制度について理解する。 				
講義内容 講義担当者	次	主題	内 容	担当者	学習方法
	1	高齢者とは 老年看護とは	高齢者体験	教員	演習
	2				
	3		1) 老年期の定義 2) 高齢者の生理機能(感覚、運動、神経系) 3) 高齢者のイメージ 4) 高齢者の発達課題 5) 老年看護とは		講義
	4	さまざまな場で 暮らす高齢者	施設見学		見学
	5		まとめ		講義
	6				
	7	高齢者の社会 生活の特徴	1) 健康生活の維持 2) 高齢者と家族 3) 高齢者と性 4) 健康の捉え方 5) ライフイベントのストレス 6) 閉じこもりになる理由		講義
	8		講義		
	9	高齢者と倫理的 課題	1) 高齢者の社会的問題 2) 高齢者に関する統計 3) 高齢者のQOL 4) 尊厳と権利擁護 5) 老々介護 6) 高齢者の虐待問題 7) 死生観		講義 GW
	10				
	11				
	12				
	13	高齢者と社会 システム	1) 医療保険制度・老人保健制度 2) 介護保険制度と高齢者ケア 3) 高齢者を対象とした施設 4) 高齢者所得保障制度 5) 公的年金制度		講義 GW
	14				
15	評価	終講試験	試験		
テキスト・参考 文献等	1) 系統看護学講座「老年看護学」「老年看護 病態疾病論」(医学書院) 2) 国民衛生の動向				
使用教材	パソコン・プロジェクター				
履修上のアド バイス	高齢者体験モデルを使用して、高齢者の身体的特徴の実際を理解する。また身体的特徴だけでなく、精神・社会的な特徴についても理解を深め多方面から高齢者をとらえましょう。また、高齢社会における倫理的課題や自立と権利を守るための社会制度、保健医療福祉の動向についても事前学習をして臨みましょう。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	筆記試験		10		

令和4年度 「小児看護学」

科目名	子どもの理解		対象年次・時期	1年次・前期～後期		
単位・時間	2単位・45時間					
担当講師名	教員					
科目目標	小児看護の概念および小児の成長・発達を学び、小児看護の役割について理解できる。 子どもの成長・発達を支援するための日常生活の援助の方法について理解できる。 子どもと家族を取り巻く社会を学び、必要な支援について考えることができる。					
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法	
	1	小児看護の特徴	1. 子どもと家族の看護の概念 1) 小児医療看護の変遷、小児看護の役割	教員	講義	
	2		2) 統計		講義	
	3		3) 子どもの人権、インフォームドアセント		講義	
	4	子どもが生活している場	2. 特別支援学校見学		見学	
	6		まとめ		講義	
	7	子どもと家族を取り巻く環境	3. 子どもと家族を取り巻く環境 グループ学習 (1) 家族の機能 (2) 子どものネット依存 (3) 母子保健施策 (4) 予防接種 (5) 児童虐待 (6) ヤングケアラー (7) 子ども食堂 (8) 小児の公費負担医療制度		G・W	
	8		(9) 予防接種			発表会
	9					
	10					
	11	子どもの成長・発達	4. 子どもの成長・発達 1) 発達理論、成長・発達の原則		教員	講義
	12		2) 形態的・機能的発達			講義
	13		3) 心理社会的発達 愛着理論・ピアジェ理論・エリクソン理論			講義
	15		4) 発育・発達の評価			演習
	講義内容 講義担当者	16	子どもの日常生活の援助		1. 小児の日常生活援助に必要な成長・発達に関する知識と自立過程	教員
17		1) 食事			G・W	
18		2) 排泄		G・W		
20		3) 睡眠		講義		
21		4) 清潔・衣服の脱着		G・W		
21		5) 安全教育				
21	6) 遊びと学習					
23	終講試験					
テキスト・参考文献等	系統看護学 小児看護学概論・小児臨床総論 国民衛生の動向 小児看護技術アドバンス 小児看護領域の看護業務基準（日本看護協会）					
使用教材	パソコン プロジェクター モデル人形					
履修上のアドバイス	事前課題として、子どもウォッチングがあります。 また、自分の子どもの頃の写真を見直したり、家族と子どもの頃の話をするなどして、子どもをイメージしていきましょう。					
成績評価	評価方法		評価割合			
	筆記試験		10			

令和4年度 「母性看護学」

科目名	女性のライフサイクル各期の理解			対象年次・時期	1年次・後期	
単位・時間	1単位 25時間					
担当講師名	非常勤講師					
科目目標	母性看護の対象をとりまく現状を知り、女性のライフサイクル各期を理解できる					
講義内容 講義担当者	次	単元	主題	内容	担当者	学習方法
	1 2 3 4	1	母性とは	1. 母性とは 2. 母親役割 3. 母子相互作用 愛着形成 4. 家族の発達・機能	非常勤講師	講義
	5 6	2	女性のライフサイクル各期	1. 思春期の女性 1) 思春期における心身の特徴 2) 思春期にみられる健康課題 2. 成熟期の女性 1) 成熟期における心身の特徴 2) 成熟期にみられる健康課題 3. 更年期・老年期の女性 1) 更年期・老年期における心身の特徴 2) 更年期・老年期にみられる健康課題		講義
	7 8 9 10	3	リプロダクティブヘルス	1. リプロダクティブヘルスに関する概念 2. リプロダクティブヘルスに関する動向 3. リプロダクティブヘルスに関する倫理 4. 出生前診断と人工妊娠中絶	非常勤講師	講義
	11 12	4	リプロダクティブヘルスに関する法律・統計	1. 母子保健に関する法律・施策 2. 母子保健に関する統計 3. 生涯を通じた女性の健康支援	非常勤講師	講義
	13	終講試験				
	テキスト・参考文献等	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学 1 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学 2				
使用教材	家族計画指導用キッズ					
履修上のアドバイス	母性とは、女性のライフサイクルとは、リプロダクティブヘルスとは等、母性看護学に関する基礎的な知識を修得します。 また、現代女性を取り巻く様々な環境についてふれ、現代の女性が抱えている健康上の諸課題を理解し、女性がその人らしくより良く生きていくための自己決定の支援について学習します。					
成績評価	評価方法			評価割合		
	筆記試験			10		

令和4年度 「精神看護学」

科目名	心を病む人の理解		対象年次・時期	1年次 後期	
単位・時間	1単位・30時間				
担当講師名	非常勤講師・教員				
科目目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神看護の理念を理解し、歴史的変遷と人権・倫理について理解できる。 ・患者の理解と援助関係の成立の関連を理解する。 				
講義内容 講義担当者	次	主題	内容	担当者	学習方法
	1～8	精神の健康と障害	1) 精神看護とは 2) 精神障害のとらえ方 (1) 疾患モデルと障害モデル (2) 国際生活機能分類 (ICF) 3) 現代社会の構造変化 4) ストレスとは 5) 発達課題と危機 6) 心の健康とは	非常勤講師	講義 GW 校外学習
		社会の中の精神障害	1) 精神障害者を取り巻く歴史的変遷 (1) 世界の精神保健の歴史 (2) 日本の精神保健の歴史 2) 社会構造の変化と精神障害の受けとめの変化に伴う法制度の変遷		
	9～14		3) 地域で暮らす精神障害者の現状と課題 ①校外学習 (5時間) 4) 地域で暮らす精神障害者の現状と課題 ②校外学習まとめ	教員	
			5) 精神保健福祉法の理念と精神疾患患者を取り巻く環境 6) 関係の中の人間 (家族) 7) これからの精神保健サービス (1) 精神保健福祉の理念 (2) 精神障害者福祉と社会復帰対策の現状 (3) 精神障害者を取り巻く法制度の現状 (4) 社会資源の活用と調整・精神障害 (倫理) ① 精神保健福祉法 ② 障害者総合支援法 ③ 医療観察法	非常勤講師	
		看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス	1) 看護師の不安と防衛 2) 感情労働としての看護 3) 看護における共感		
15	終講試験				
テキスト 参考文献等	1. 系統看護学講座 精神看護学1 精神看護の基礎 2. 系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開				
使用教材	パワーポイント				
履修上の アドバイス	精神看護を学ぶ上での基礎となる科目です。精神看護と精神科看護の対象と違いをしっかりと学んで下さい。また、昨今社会の動向として、精神障害者の増加が取り上げられることが多くなっています。障害者を取り巻く法律や環境について広く関心を持ってほしいと思っています。そのために、新聞を読んだり、当事者やその家族が書いた書籍を読んだり、あるいは障害者に関する情報番組や映画などを視聴するなどして基礎的理解を深めていきましょう。				
成績評価	評価方法		評価割合		
	筆記試験		10		